

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

4 学年実施概要

学校名	私立福岡雙葉小学校	校長名	近藤 明
所在地	〒810-0027 福岡県福岡市中央区御所谷 7 番 1 号 <a href="http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html">http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html</a>		
参加者	4 学年 3 学級 111 名	指導教諭	初田智 田中尊子 国崎光代
参加目的	本校は、新しい教育理念として、「グローバルシティズン教育」を掲げました。宇宙連詩作りをとおして、児童が、「地球人」を意識し、「志」を立てるきっかけになることを期待して参加しました。		
指導目標	<p>目標1:宇宙という視点から身の回りのモノゴトや繋がりを見ること、考えるきっかけを、児童に与える。(JAXA へレクチャへの協力を要請)</p> <p>目標2:宇宙連詩に向けての詩の書き方を学ぶ機会を、児童に提供する。(JAXA へレクチャへの協力を要請)</p> <p>目標3:児童の学級での協働活動として、宇宙連詩の編纂を促進し、1/2 成人式で発表する機会を与える。</p>		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
実施段階 実施時期	取組内容		
準備段階 10 月～	JAXA 職員と本校関係者との意見交換会を開催し、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て進めた。		
導入段階 12 月	<p>指導目標1への取り組み</p> <p>JAXA 協力(JAXA 職員の講師としての派遣)のもと、宇宙レクチャを実施。(2 コマ(90 分))</p> <p>導入:「地球人」という自覚を児童から引き出すための宇宙劇</p> <p>ワークショップ:私たちはどこから来たのか?何なのか?どこへ向かうのか?の問いに答える活動としての JAXA 等が進める宇宙活動の紹介と、ワークショップ、対話の実施</p> <p>宇宙連詩作りへの心の準備:私たちは身の回りのモノゴトと、宇宙の3つの誕生日:約 137 億年前の宇宙創成、約 46 億年前の地球誕生、約 40 億年前の生命誕生で繋がっている。何を書いても宇宙連詩。</p> <p>質疑応答、感想の集約</p>		
実施段階 1 月	<p>指導目標2への取り組み</p> <p>JAXA 協力(詩人覚和歌子さんを講師としての派遣)のもと、宇宙連詩レクチャを実施。(2 コマ(90 分))</p> <p>事前準備:冒頭3詩(第1詩:谷川俊太郎、第2詩:覚和歌子、第3詩:各学級担任)に続く、第4詩目の作成を宿題として出す。</p>		

	<p>レクチャ: 児童に、詩作りの心構え(何について書いても詩にできる等)、連詩作りの心構え(言葉を繋ぐゲームとして捉える等)を持たせることをねらいに、講師役の詩人から、具体例を紹介(作品の朗読等)する形で、レクチャ頂いた。</p> <p>ワークショップ: 児童に、詩作り、連詩作りの心構えを、体得させることを目的に、講師役の詩人からマンツーマンの指導を受けさせる。(希望児童が、宿題として作詩してきた第4詩を朗読し、講師役の詩人がアドバイスを実施) 質疑応答、感想の集約</p>
<p><b>実施段階</b> 1~3月</p>	<p>指導目標3への取り組み</p> <p>児童が競って詩づくりに取り組むことをねらいに、学級を2チームに分け、第5詩目以降を、2チームが並行して、繋いでいく形式を試行した。</p> <p>詩作りの当番がまわってきた児童に作品を発表させ、他の児童から「よいところ」を指摘する活動を行った。また、作品を教室の壁に準じ掲示していき、学級・学年の児童全員が、ともだちの詩を何時でも振り返られる環境とした。加えて、学年を超えて、宇宙連詩づくりが見られるように、本校ホームページ上に、編纂中の宇宙連詩を掲載した。</p> <p>多様な層の人たちと協働することで、「地球人」を意識させることをねらいに、本校で講演頂いた特別講師の方にも、宇宙連詩に寄稿頂いた。また、希望する本校保護者を募り、世代を超えた宇宙連詩作りを進めて頂いた。</p> <p>詩の表現を体得させることを目的に、完成した宇宙連詩を順番に朗読する活動を実施した。1/2成人式では、保護者を前に、完成した作品を朗読した。</p>
<p><b>社会との繋がり</b></p>	
<p>宇宙レクチャ、宇宙連詩レクチャでは、地元メディア(西日本新聞、NHKテレビ)が取材し、レクチャの様子が報道された。</p>	

## 平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告 4 学年指導教諭からの報告

### 「宇宙連詩」に取り組んで

4 年 B 組指導教諭 田中尊子

「みんなで詩をつないで、宇宙に飛ばそう。」子ども達はキョトンとした顔つきで反応に今ひとつ。参観授業で初めて「連詩」を紹介し楽しんだ後、意気込んで私が発した時の反応でした。子ども達にすると、「連詩」とやらもまだ分からないし、ましてや「宇宙ってなあに？」の世界だったのしょう。子どもだけでなく、私自身も初めてのことで、多少不安な気持ちでスタートでした。しかし、この 3 月、「2 分の一成人式」での発表に至るまでに、不安は大きな喜びに変わりました。

まず、JAXA のご協力で「宇宙レクチャ」をさせていただきました。実際に宇宙服や宇宙の映像などだけでなく、実際に風船で「ビッグバン」を実験してみたり、同じ地球人として環境問題を、ブレイクストーミングしてみたり…この「宇宙」にイメージ豊かに触れることができました。ただ単に未知なることを知ったというだけでなく、その中で得た「視野の広がり」「心に受ける心地よいカルチャーショック」…グローバルシティズンとしての、地球人・地球市民の意識の芽生えというのでしょうか…子ども達の反応が勢いづきました。宇宙関係、他の国の話題にも敏感になりました。

そして、覚和歌子さんの「連詩レクチャ」をいただきました。「本物」に教えていただくことがこんなに大事なことなのかと改めて思い知らされるほど、覚さんの発した「言葉遊び」「私の回りも宇宙、どんなことでも書いていい」「自分がつながっていると思ったらつながりはある。ポーンと飛ぶのがいい！」のルールが感動と共に強烈に子ども達に伝わりました。その時、子ども達が得たエネルギーは、ややもすると中だるみもあるかなと心配した連詩作りを活気あるものにして下さったように思います。

その後、クラスで 2 グループに別れ 1 日に 2 詩ずつできていきます。子ども達は 3 つの詩をみて、いいところを見つけて発表しあいます。アドバイスもあります。そして一つ選んでいくのです。子どもたちは、予想に反した「ポーンと飛んだ」つながり方や、自分が使わない言葉・表現に出会った時など生き生きと交流しました。「すごい、そんなコト考えられるんだ。」「分かる！ ちゃんらしい！」等、言葉が行きかいました。毎日のことなので、みんなに伝える用紙の準備、発表の手順等子ども達自身が協力して活発に仕切っていきます。そこがまた頼もしく感じたものです。

この詩の中には色々な性質の詩がありますが、「言葉遊びいい。」と心に開放感を保障した上で、その実、子どもがその時抱えていた不安や葛藤などを詩に表現することができた例が 5 点ほどあります。書くことで自分の心を見つめたり、表出させたり…すごい取り組みだと思いました。そんな詩に、校内の音楽教師が音楽への想いを、オーストラリア人の英語教師が英語で、全盲の牧師先生が点字で、校長先生が得意の「短歌風」に…など尊敬する大好きな大人たちも繋がっていき、子ども達の「誇れる連詩」を盛り立てて下さいました。また、保護者の方たちの方では「ファミリー連詩」という形でノートが回り、繋がっていきました。

この活動を通して、みんなで作るんだ、繋がるんだと仲間意識を強め、その後の色々な企画も

自分達で上手に作り上げる程の連帯感や、互いが安心して持ち味出せる関係を随所で発揮してくれました。一人ひとりの詩に対して級友のコメントしあう過程は、互いに学び合う楽しさを味わい、詩のよさだけでなくその友達自身のよさを感じたり、自分自身を見つめたりすることができたように思えます。そして、制作過程や交流過程全般で、言葉を広げ豊かにしていき、新たな言葉や表現方法を身につけることにおいても確かな手応えがありました。こんな企画を提供していただいたことに感謝申し上げます。

## 宇宙連詩を通して

4 学年 C 組指導教諭 国崎光代

「宇宙に子ども達と作った詩を飛ばすことができる！」と、この企画を初めて聞いた時は、あまりのスケールの大きさに驚き興奮したことを覚えています。子ども達の詩をつないで連詩をきちんと仕上げるができるのかという不安もありましたが、夢のある企画に参加できる喜びの方が上回り参加を決意しました。構えて準備を進めていましたが、練習ですらすらと詩を書く子ども達の様子を見たり、宇宙や詩に関するレクチャを受けたりすることで連詩に対する構えが取れていき、自由に楽しんで連詩をつなぐいでいくことができました。

クラスの連詩作りは、谷川俊太郎さん、覚和歌子さん、担任の詩を受けて、第4詩目を子ども達全員が考えました。覚さんのレクチャを受けたことで、子ども達は第3詩から「ボンと飛ぶ」ことが上手にできていました。第5詩目からはクラスを2グループに分けて進めました。前の詩を受けて、空を見上げながら家でじっくり考えてきた詩を朝に1グループから3人、昼にもう1グループから3人紹介し、それぞれ次の1詩を選びました。紹介する時には、前詩の友達の朗読に続いて自分の詩を朗読し、その詩に対する感想を様々な角度で友達からもらいました。このように、お互いの詩のいい所を見つけあうことで、詩の内容を高めたり前の詩からの飛び方に気付いたりすることができたのではないかと思います。また、子ども達がつないでいく中に、学校や学習でお世話になっている先生やゲストティーチャーにも詩を書いていただくことで子ども達の活動に盛り上がりを持たせることもできました。

このような宇宙連詩の活動を通して、子ども達、保護者、そして担任にもたくさんの成果が得られたと感じています。

まず、子ども達が宇宙を身近に感じることができました。夜に星や月を見ることが増えたという児童、朝・夕に保護者と共に宇宙ステーションを見たという児童、スペースシャトルや宇宙飛行士の新聞記事を切り抜いて学校に持ってきた児童などもいました。また、活動の中に学校の教育目標でもある「独自性・相互性・自由性」も感じられました。一人ひとりの詩にその子らしさが感じられる独自性、互いのよさを認め合いその良さを自分の詩にも活かそうとする相互性、その友達との交流を活かして自分の世界を高めて素直に表現しようとする自由性がありました。さらに、毎日の活動を続けて行くうちに、その日の日直を中心にして子ども達が自主的に次の詩を選ぶ活動もできるようになりました。自分達に任せ、進めることができたことで自信を感じることもできました。

そして、子ども達だけでなく保護者にも連詩を広めることができました。宇宙・連詩レクチャに保

護者の参加も呼び掛け、子ども達と共にレクチャを受けてもらいました。レクチャを受けた保護者からは、グローバルな視点を子ども達に持たせることができたことや教科外の活動で子ども達の意欲を感じたことなど感想をいただきました。また、「ファミリー連詩」のノートを回覧し、両親だけでなく兄弟姉妹などだれでも参加可能な形をとりました。ファミリー連詩に参加することで他の保護者の考え方や同じ悩みを感じることができ良かったという声を多数いただきました。そして、このように保護者が参加して何かを作り上げる企画というものが今までなかったので、今後も連詩を続けたいという声もありました。

今後、連詩を続ける場合には、詩の質を高めていくことが必要かと思います。そのためには、連詩を作る途中の段階でクラス内の友達だけでなくたくさんの方の目(学校内の先生、ゲストティーチャー、詩人など)で詩の良さを認めてもらったりアドバイスをもらったりすることで一人ひとりの詩の内容も高められるのではないかと思います。

連詩を終えて子ども達も私も、単に詩が繋がっただけでなく心がつながった事を感じることができました。一人ひとりが同じ詩から違う詩を考えるように、みんな多様な感じ方や考え方をすることを理解し、その思いを大切にすることで、他者を思いやる心が育ったと思います。宇宙連詩を仕上げるといふ1つの目標を持ってみんなで前に進めた活動への満足感を感じると共に、学級経営としても効果の高い活動であったことを感じ、この企画に参加させていただけたことに感謝しています。2分の1成人式を迎えた10歳の子ども達と保護者の連詩が宇宙に飛び立つ日を楽しみにしています。ありがとうございました。

4年A組指導教諭 初田 智

#### 宇宙連詩の活動

まず、子どもたちはレクチャを受けることで「宇宙」の不思議さと「連詩」の魅力に気付くことができた。一流の講師の方に直接疑問をぶつけることができたことで、子どもたちのやる気が大きく引き出された。

連詩作りの過程では、友達がどのような気持ちで詩を作ったのかをみんなで真剣に考える機会を得させて頂いた。子どもたちに身に付いた力として、友達の詩の良さを見付け出そうとする力(=相手の良さを見付ける力)、友達の存在や思いに関心を持つ力、自己表現は本来自由なものだということに気付く力(...気付かなかった子どもたちもいたが)、などが挙げられる。また、「次は誰が選ばれるのだろう」というドキドキ感によって創作意欲がわくことや、選ばれることで誰もが一度は主役になれるという要素も連詩ならではの効果ではないかと感じた。自分の思いを短い言葉で言い表すことの難しさと感じ、言葉の持つ魅力に気付くことができたことも子どもたちの財産になると期待している。

宇宙連詩を通して私も子どもたちも共に成長することができた。仕上がった宇宙連詩冊子を見ると、誇らしく思えるし、色々な思い出が詰まっていて胸が熱くなる。宇宙連詩で生み出されるものは、

宇宙連詩でしか得られない。この素晴らしい取り組みが、全国の学校へと広がっていくことを願っている。

#### 4年生参加者・保護者からの報告

4年児童 MA

みんな個性的なすてきな詩を作っていてびっくりしました。おもしろいしや少しせつない詩等、色々な詩があり感動させられました。また、色々な先生も加わってくださり、よりすてきなものになりました。連詩づくり楽しかったです。

4年児童 RT

毎朝、毎昼の連詩の発表が楽しかったです。連詩作りの上手な人の「小技」をぬすんで、いい詩が作れるようになりました。宇宙レクチャで、「私たちはみんなつながっている」をテーマに、つながっているものを色々考えてみんなで作ったのも楽しかったです。

4年児童 NY

覚さんのお話で、詩は自分の世界を自由に書いていいと聞いて、自分で考えて詩の世界に入ると、どんどんどんどん楽しくなって私は詩が大好きになりました。次から次へと4Bみんなで作った詩は一人ひとりのいろんな思いが入っていて、お友達を見ていると吸い込まれそうで、みんなの詩は上手だなと思いました。一人ひとり、教えあってアドバイスや応援で、また上手く詩ができていったんじゃないかなあ。

4年児童 NS

私は、初めはちょっとむずかしかったけど、どんどん毎日書いていくうちに楽しくなり、次第に書きたいことがポンと浮かぶようになりました。私は、まだまだつなげたいです。

4年児童 ON

初めはちゃんと詩を作ることができるかとっても不安でした。でも、どんどん連詩が進むにつれて、みんなの詩も参考に、覚さんが「言葉遊び」といったように楽しく詩を作れて本当に良かったです。みんなの詩が宇宙に行くなんてとっても楽しみです。4年B組が心をひとつにしてがんばった連詩なので、本当にワクワクします！

4年保護者 RY

子ども達が日々感じていることや考えていることを、自分の娘だけでなく知ることができてうれしかったです。子どもらしくかわいいと思える中にも少しずつ大人に近づいている精神面での成長にも感動いたしました。

4年保護者 NO

「本当にすごい！」っていう一言でした。子どもの発想は柔軟に富んでいてこの詩を絵に表したらとても良い作品になるんじゃないかなと思いました。子どもも連詩作りを通して考えて発想し文を作成する工程を楽しんでおりました。

4年保護者 AA

最初は、硬かったり、偏っていたりした詩が回を重ねる度に表現が豊かになっていくので驚きま

した。自身の文章力も豊かになり、お友達と詩をつなげることによって、自然と文章を読み取る力もついたと思います。

4年保護者 SF

同じ詩から繋いでいくにしてもそれぞれちがったイメージや感じ方があり、また一人ひとりが書いた詩にはその人の心の優しさなどが表れて、改めて友達のよさを発見することにもなったのではないかと思います。そして、連詩を通してクラスみんなが心を一つ撫して仲間意識を強くもてるようになったのではと思います。

4年保護者 KT(父)

初め、6年生の国語の授業でやることを4年生がするという事について以下の不安があった。

4年生にはまだ難しく消化不良をおこすのではないかと。他の授業にしわ寄せがくるのではないかと。しかし、始めてみると、友達と刺激し合って感性が磨かれていたり、星の名前の暗記になりがちな地学がより興味を持って受けられたりと良い影響がありました。

4年保護者 TN

みんなのいろんな表現に触れわが子も感じるものが多かったようです。頭も心もセンスもフル回転し手作っていたので良い学びになったと思います。協力し合って一つの事を成していくことは重要なことであり、とてもよい企画だったと思います。

#### 4年生アンケートの結果

**Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXAの です」とか、「私は、「きぼう」に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？**

「はい」と答えた方 40名(72名中)クラスによってばらつき大きい

**Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？**

「はい」と答えた方 72名(72名中)

**Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？**

「はい」と答えた方 72名(72名中)

**Q4 その理由は何ですか？(箇条書きで結構です。)**

楽しいから・おもしろいから・好きだから

・・・みんなの詩をつなげることが・・・

みんなの気持ちが伝わってくるから・気持ちがつまっているから、  
みんなの気持ちが知りたいから  
心と心が繋がったから、  
友情が深まるから  
クラスが一つにつながる。まとまる気がするから、絆が深まるから  
みんなといっしょに出来たから  
表現の仕方が分かって役の立つと思った。詩がポンと書けるようになったから



平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

5 学年実施概要

学校名	私立福岡雙葉小学校	校長名	近藤 明
所在地	〒810-0027 福岡県福岡市中央区御所谷 7 番 1 号 <a href="http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html">http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html</a>		
参加者	5 学年 3 学級 106 名	指導教諭	山口正芳 下川真理子 竹内理恵子
参加目的	本校は、新しい教育理念として、「グローバルシティズン教育」を掲げました。宇宙連詩作りをとおして、児童が、「地球人」を意識し、「志」を立てるきっかけになることを期待して参加しました。		
指導目標	目標 1: 宇宙という視点から身の回りのモノゴトや繋がりを見ること、考えるきっかけを、児童に与える。(JAXA へレクチャへの協力を要請) 目標 2: 児童の学級での協働活動として、宇宙連詩の編纂を促進し、朝の会や帰りの会で交流する機会を児童に与える。		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
実施段階 実施時期	取組内容		
準備段階 10 月～	JAXA 職員と本校関係者との意見交換会を開催し、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て進めた。		
導入段階 12 月	指導目標 1 への取り組み JAXA 協力 (JAXA 職員の講師としての派遣) のもと、宇宙レクチャを実施。(1 コマ (45 分)) 導入: 「地球人」という自覚を児童から引き出すための宇宙劇 ワークショップ: 私たちはどこから来たのか? 何ものか? どこへ向かうのか? の問いに答える活動としての JAXA 等が進める宇宙活動の紹介と、ワークショップ、対話の実施 宇宙連詩作りへの心の準備: 私たちは身の回りのモノゴトと、宇宙の 3 つの誕生日: 約 137 億年前の宇宙創成、約 46 億年前の地球誕生、約 40 億年前の生命誕生で繋がっている。何を書いても宇宙連詩。 質疑応答、感想の集約		
実施段階 12～3 月	連詩作りの練習 (5 人で繋ぐもの) を学習プリントを使って繰り返し行った。 宇宙連詩の第 1 詩・第 2 詩・第 3 詩を読み、感想を出し合った。そして、第 4 詩を全員で考え、投票するなどして代表を決定した。 第 5 詩からは、当番になった児童が連詩ノート (3 クラス共通のものを		

購入)を前日に自宅に持ち帰って詩を作り、当日の朝の会や帰りの会で詩を発表した。そして、その詩について他の児童が感想や意見を出すという交流活動を続けていった。

作品を教室や廊下の掲示板に少しずつ掲示していき、学級・学年の児童全員が、詩を振り返る環境を整えた。加えて、学年を超えて、宇宙連詩づくりが見れるように、本校ホームページ上に、編纂中の宇宙連詩を掲載した。

最後のメンバーの発表が終わった後に、クラスごとに詩集を作成し、完成した喜びを分かち合った。中には、詩の下のスペースに挿絵を描いたり、作者(クラスメイト)にお願いして一言を書いてもらったりする児童もいて、別に作成したクラスの文集とはまた一味違う「宝物」となったようである。

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
5 学年指導教諭からの報告

宇宙連詩に取り組んでみて

5 年 A 組指導教諭 山口正芳

「まだ続けたい！」という児童の反応で終わった本クラスの宇宙連詩。最後に詩集をみんなで作り、全頁に挿絵をかいたりその詩の作者である友達に一言書いてもらったりして、よい交流活動が展開されたと思います。

取り組みの中で気付いたことですが、私が授業の中でいつも心がけている本学園の 3 本柱(自由性・相互性・独自性)が常に活かされていたように思います。自由な発想で具体的に表現できること(自由性)、次の人のことを考え、続けられるように完結しないことや表現のよさについて交流ができたこと(相互性)、前の詩からポンと飛ぶことを目標にし、自分の個性を発揮できること(独自性)...これは、グローバルシティズンを育て続けていく本学園にとって大きな可能性をもつ教育ツールであると感じました。

余談ですが、作文が嫌いな子どもが、友達の詩を読んでそのおもしろさを味わい、表現する楽しさを感じていたのにはおどろきました。大きく考えるならば、続けていくことで表現力や言語力の底上げにもつながるのではないかと思います。

JAXAの皆様、このようなよい機会をいただき、本当にありがとうございました。

宇宙に自分たちの書いた詩が飛んでゆく、国際宇宙ステーションにそれが収められる！夢のような企画に子ども達も教師も心がときめきました。初めて挑む「連詩」、前の人詩に繋いで書く、おまけにあまり馴染みのない「宇宙」がくっついている、どんなものなのだろうとワクワクするする気持ちと、なんだか難しそうだなと得体の知れないものへの不安感も芽生えました。しかし、宇宙レクチャーをうけた子ども達は、この宇宙に誕生したモノゴトはみーんな繋がっているんだ、だからどんなことを詩にしても宇宙連詩になるんだよというおおらかな世界で、安心して詩を書き進めました。

クラスで1冊の連詩ノートを作り、子ども達は自分の番になると家に持ち帰って詩を書きます。授業中の決められた時間内で書く詩ではなく、家で自分なりの時間をかけ作詩ができるのは、その子にあったペースで好きなだけ詩の世界に浸っていられて心地よかったようです。前者の詩の世界を大きく変え遠くに飛んだ詩が面白く、連詩をする上で大事なことだという価値の中で書く詩。友達の詩に繋げることと飛ばす(離れる)ことを同時にしなくてはならない作業は、高学年の子どもたちには、作詩意欲をかきたてられるやりがいのある活動でした。また、前の人詩のどんなところに繋がりがいいのかをみんなでクイズのようにして考え、あれこれと意見を出し合っていくことも面白い活動でした。

どんな世界の詩を書いてもいいという中で、子ども達の書いた作品は、地球や環境・生命のことを心配していたり自然の美しさや神秘に気がついていたり、人のあたたかさや優しさを詠ったり、自分の夢や世界平和を願ったりしたものも多く、私たちが学校で育てているものが目に見える形となって表れ確認できよかったです。

宇宙連詩への取り組みで、子ども達は宇宙への憧れや希望を抱いたのと同時に、自分の住む「地球」をこれまで以上に好きになり、地球人だということを意識しました。このことは、これから地球を守ってゆく子ども達にとって、とても大きな働きではなかったかと思います。そして、クラスのみんながひとつに繋がった連詩が完成し、普段は目に見えない友達との「つながり」を感じることができました。ありがとうございました。

5年生という精神的にも大きく成長するこの時期に、大切な一年間を締めくくるように宇宙連詩作りが幕を閉じました。最後の五行詩が出来上がった後あらためてみんなで教室に掲示してある詩を眺めました。一つ一つ違う人が作ったものなのに、どの詩にも全部見覚えがあり思い出があります。毎朝新しくできた詩を板書しては、書いた人の気持ちを考え、上手なところを褒めあい、もっとこうしたらいいよと意見を出し合って作り上げた学級宇宙連詩は、みんなの心をつないだ大きな一つの作品になりました。一回しかないチャンスだから、自分らしいものを作ろうと呼びかけまし

た。子どもたちは「自分らしいって何だろう？」と自分自身を見つめる良い機会になりました。覚さんにおしえていただいた通りに前の人の詩につながりながらも世界がポーンと飛ぶように工夫することで、ちょっとずつ違う景色が広がります。友達の工夫に感心し、自分とは違う感じ方をするんだという認め合いもできました。詩は自分の内面世界を表出する場になります。一緒に学習したり遊んだりするだけではわからない一人一人の個性や持ち味をクラス全体で共有することができました。最後の詩の中で「連詩で結ばれた私たちの絆」と歌っています。感受性が強く、自尊感情が揺れ動く思春期に仲間たちに認められ連帯感に喜びを感じることができただけでも素晴らしい財産だと感じました。そして、この連詩がここにとどまることなく地球を飛び出し宇宙ステーションに届くということが、とても大きなモチベーションになっていたことは言うまでもありません。普段宇宙のことなど考えたことなかった女の子たちが、宇宙に興味を持ち自分を地球社会の一員だと感じることは、大きな視野の展開になります。宇宙が輝いているからこそ自分たちの地球を大切にしたいと思えるのではないのでしょうか。今回初めて参加させていただいて、宇宙連詩作りの持つ素晴らしい魅力を味わうことができました。ありがとうございました。

### 5年生参加者からの報告

5年児童 Y T

私は、この宇宙連詩をやることでとてもいい経験ができました。宇宙連詩でクラスの絆が深まっていると思います。やって楽しかったです。また家族や友達と連詩をやりたいです。

5年児童 N O

私は、クラスの皆で宇宙連詩をして人それぞれの個性が出ておもしろかったです。次にどんな詩が出て来るかワクワクしました。6年生になって新しいメンバーと一緒にまた連詩をして、個性を深め、つながりたいです。

5年児童 M N

私は宇宙連詩に取り組んで、繋がる詩のすごさと、繋げる詩の色を実感しました。ちょっとでもつながりが見えたらそれは連詩。力強い詩、ふんわりとした詩、どっしりとした詩など、全部詩には色が表れていました。

5年児童 S Y

宇宙連詩は、前に書いた人の世界から変えることに気をつけなければいけなくてむずかしかったです。でも皆の詩を読んだり聞いたりして、前の人のどこにつなげたのかを考えるのが楽しかったです。私が書いた詩がどう繋がっていくか楽しみでした。5年生の良い思い出になりました。

5年児童 宇宙連詩はふつうの詩ではなく、前の人につなげるけど世界を変えるというむずかしさを知りました。でも、想像力が豊かになったと感じました。みんなの連詩は、私が発想できないような言葉がたくさん出ていました。

5年児童 Y・M

詩は、ふつうひとりで作るものだけど、宇宙連詩は、クラスの皆で意見を出し合って協力して作り

ました。たくさんの人の思いが詩につまっているので、最高の連詩になったと思います。

5年児童 MM

私はこの宇宙連詩に参加して、今まで知らなかった宇宙のことがわかり、今までよりもかなり宇宙が身近に感じられるようになりました。自分の詩が宇宙に飛ばされると思うと、作るのがより楽しくなります。。またしたいです。

5年児童 HM

私は、宇宙連詩に取り組んで JAXA がインターネット上でやっている「宇宙連詩」にも応募しました。最終候補の一人まで残れたのがとてもうれしかったです。それから宇宙に関係あるテレビなどは全部見るようになりました。この連詩に取り組めてよかったです。

5年児童 NI

私は、宇宙連詩に取り組み、地球の素晴らしさ、宇宙の素晴らしさに改めて目をむけることができました。私たちの詩が宇宙に飛ばされることや、宇宙に私たちの心が行くことは素晴らしいです。

## 5 学年生アンケートの集計結果

**Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXA の です」とか、「私は、「きぼう」に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？**

「はい」と答えた方 60 名(106 名中)クラスによってばらつき大きい

**Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？**

「はい」と答えた方 97 名(106 名中)

**Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？**

「はい」と答えた方 97 名(106 名中)

**Q4 その理由は何ですか？(箇条書きで結構です。)**

楽しいから・おもしろいから

- ・ 作ることが・・・考えることが・・・
- ・ どんどんイメージが膨らんで・・・
- ・ 詩の繋げ方を考えるのが・自分の詩も友達の詩も・・・

- ・ 皆の個性が出て
- ・ 次の詩がどんな詩になるかわくわくしてきたから
- ・ 皆の詩がつながって、色々な展開・色々な言葉・色々な発想になり・・・
- ・ 世界が変わっていったこと
- ・ 皆と協力して作ることが・・・
- ・ みんなで1つの詩を作っていくのが...

自分達の詩が宇宙に打ち上げられることがすごいと思ったから

クラスの絆が深まるから、クラスが一つにまとまる気がするから、皆とのつながりを感じるから、みんなの心が一つになるから、良い思いでになった

みんなの気持ちがひとつになって宇宙がとても身近に感じることができ、将来がたのしみになってきて、自分の気もちが素直になれる。

宇宙連詩を通して色々な事ができたから、色々な発見が会ったから

皆の詩が見たい・聞きたいから、友達の考えを知ることができるから

5年生の時よりいい詩が書けそうだから

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

6 学年実施概要

学校名	私立福岡雙葉小学校	校長名	近藤 明
所在地	〒810-0027 福岡県福岡市中央区御所谷 7 番 1 号 <a href="http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html">http://www.fukuokafutaba.ed.jp/elementary/elementary.html</a>		
参加者	6 年生 3 学級 107 名	指導教諭	前原礼子 渡辺明彦 井上貞子
参加目的	本校は、新しい教育理念として、「グローバルシティズン教育」を掲げました。宇宙連詩作りをとおして、児童が、「地球人」を意識し、「志」を立てるきっかけになることを期待して参加しました。		
指導目標	目目標 1: 宇宙という視点から身の回りのモノゴトや繋がりを見ること、考えるきっかけを、児童に与える。(JAXA へレクチャへの協力を要請) 目標 2: 連詩を作ることで、共同で創作したり即興で創作したりすることができる。(6 年生国語単元「連詩を作ろう」の発展として)		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
実施段階 実施時期	取組内容		
準備段階 10 月～	JAXA 職員と本校関係者との意見交換会を開催し、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て進めた。		
導入段階 1 月上旬	国語単元 創造する心を育てる(「連詩」を発見する 連詩を作ろう の授業をする。)		
1 月中旬	指導目標 1 への取り組み JAXA 協力(JAXA 職員の講師としての派遣)のもと、宇宙レクチャを実施。(1コマ(45分)) 導入:「地球人」という自覚を児童から引き出すための宇宙劇 ワークショップ:私たちはどこから来たのか?何ものか?どこへ向かうのか?の問いに答える活動としての JAXA 等が進める宇宙活動の紹介と、ワークショップ、対話の実施 宇宙連詩作りへの心の準備:私たちは身の回りのモノゴトと、宇宙の3つの誕生日:約137億年前の宇宙創成、約46億年前の地球誕生、約40億年前の生命誕生で繋がっている。何を書いても宇宙連詩。 質疑応答、感想の集約		
実施段階	国語の単元の学習、宇宙レクチャを受けて、宇宙連詩を詩の学習の発		



2～3月	<p>展学習として取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 国語の学習で「連詩」の意味を知る。</li><li>(2) グループを作り、自由に連詩を作ってみる。</li><li>(3) 作った連詩を発表しあい、良い点を話し合う。</li><li>(4) 宇宙レクチャのもと、宇宙連詩に取り組む。</li></ul> <p>教師が作った第4詩をもとに、各自第5詩を作り全体で話し合う。そこで、クラス代表の第5詩を選ぶ。</p> <p>6グループに分かれ、第5詩をもとに各自第6詩を作り、グループで話し合う。そこで、グループ代表の第6詩を決める。</p> <p>第7詩以降、グループ内で順番を決め、連詩を連ねていく。</p> <p>基本的に、前の詩を受け、次の人が自宅で詩を作っていく、学校で話し合いながら詩を決定していった。</p> <p>出来上がった詩を全体で読み合う。</p>
------	---

## 平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告 6 学年指導教諭からの報告

6 学年指導教諭一同

6 年生の卒業前の時期に、共同で詩を作っていくという活動は、クラスの仲間意識を強める点においてもいい取り組みとなったと感じている。

児童は、国語単元の授業のもと、一つのテーマにそって詩を連ねていくことに関心を持ち、活動はとても活気のある中で行っていた。単に宇宙というだけでなく、自分の置かれている立場、友達との関係、喜びや悩みなど、気持ちを表していくことが楽しく、また、それが、友達とつながっていくことがうれしかったようだ。そして、一つのを一緒に作り上げていくことに、協調や協力といった力も付いてきたと思う。

6 年 3 学期の時期において良い点もあるが、時間が取れなかったり、休みの多い時期だったりもあるので、取り組みとして余裕がなかった点が反省点である。

6 年 C 組指導教諭 井上貞子

6 年生は「創造する心」という単元で、連詩の学習をするようになっている。この単元は「連詩を発見する」「連詩を作ろう」の 2 つの教材が組み合わさっており、「連詩を発見する」では連詩の特徴やルールを学習し、「連詩を作ろう」では例示されている連詩を鑑賞した後自分で連詩を作る、という構成になっている。

この単元の学習では、子どもたちが連詩のよさを理解し、連詩を作ろうという意欲が育つように心がけて指導した。

向井さんの上の句に続けて下の句を作る

教科書に載っている向井千秋さんの「宙返り 何度もできる 無重力」という上の句に続けて下の句を作った。次の句はその一部である。

- ・オリンピックで 満点とれる           かれん
- ・苦労もせずに ダイエット成功       かつき
- ・マジシャンきっと びっくりするね   なつき
- ・地球よりも 楽しそう               れいこ
- ・苦手な体育 満点ヤッター           みさき
- ・夢の空間 楽しそうだな           まえら
- ・飛べない鳥と 飛んでみたいな       えるむ

・わたしは宇宙の 体操選手 ゆな  
・浮んで浮んで あれここはどこ まい

向井さんの上の句が創造をふくらませやすいせいもあり、子どもたちは自由に創造して下の句を作っていた。出来た下の句を学級通信にのせると、同じ上の句から、36の違った下の句が生まれ、その下の句にはそれぞれにその人らしさが表れていることに、子どもたちはおもしろさを感じていた。よく授業で、短歌や俳句とその作者を結びつける学習をするが、どの下の句を誰が書いたのかあてる活動も楽しい活動になるのではないかと思った。

#### 6グループに分かれ連詩をつくる

36人が6人ずつの6グループに分かれて昼食時に連詩を作った。できた連詩は「連詩コーナー」を設けて掲示していった。掲示することで他のグループを意識するせいか、連詩をつくりながらの昼食はいつもより、話がはずんでいた。しかし、掲示することで、似た詩が増え向井さんの句に続けて作った句より、自由な発想の詩が少なくなった気がした。次回は掲示しないで、グループの独自性を生かした詩を書かせてみたい。

#### 卒業を目の前にして

卒業まで二週間になった時、3人グループをつくりクラスのみんなへのメッセージを書こう、という声があがった。そこで、3人ずつメッセージを書き、朝黒板にはっておくことにした。子どもたちは朝学校に来てメッセージを楽しそうに見ていた。この活動によって子どもたちの心が卒業に向かって一つになっていった。この活動は連詩の形式ではないが、前の人メッセージを受けて次のことばを考えると意識のうえで連詩に似ていると思った。次回は連詩の形式でこの活動を行ってみたい。

以上、実践を通して次回に生かしたいことを中心に振り返ってみました。